

平成19年3月
東京都福祉保健局

「療養病床アンケート調査」東京都分集計結果の概要について

この集計結果は、先般、厚生労働省が公表した「療養病床アンケート調査」結果をもとに、東京都分を集計したものである。

調査目的

今後本格化する療養病床の再編成に向け、各都道府県において地域特性に応じた対応方針を確立し、計画的な療養病床の転換を図るための基礎資料とするために、療養病床入院患者のサービスニーズや療養病床を有する医療機関の意向等を把握するものである。

調査方法等

「施設票」「患者票」に基づき、転換意向、入院患者の状態等について以下のとおり調査を実施した。

・アンケート調査の対象及び客体

「施設票」...療養病床を有する医療機関（全数）

*ただし、集計にあたっては回復期リハビリテーション管理料算定病床及び当該病床入院者を除いている。

「患者票」...上記の医療機関の入院患者のうち、医療療養病床（介護保険移行準備病床を含む。また、療養病棟入院基本料又は有床診療所療養病床入院基本料を算定している病床に限る。）、介護療養病床（経過型介護療養病床を含む。）それぞれについて誕生月が3月、6月、9月、12月の全患者を抽出

・アンケート調査の時期

平成18年10月1日

回答率等

- ・調査対象施設数 260 医療機関
- ・回答施設数 250 医療機関
- ・回答率 96.2%

* 当該医療機関の有する療養病床の全てが回復期リハビリテーション管理料で算定されている医療機関については、集計から除いている。

集計結果の概要

< 施設票 >

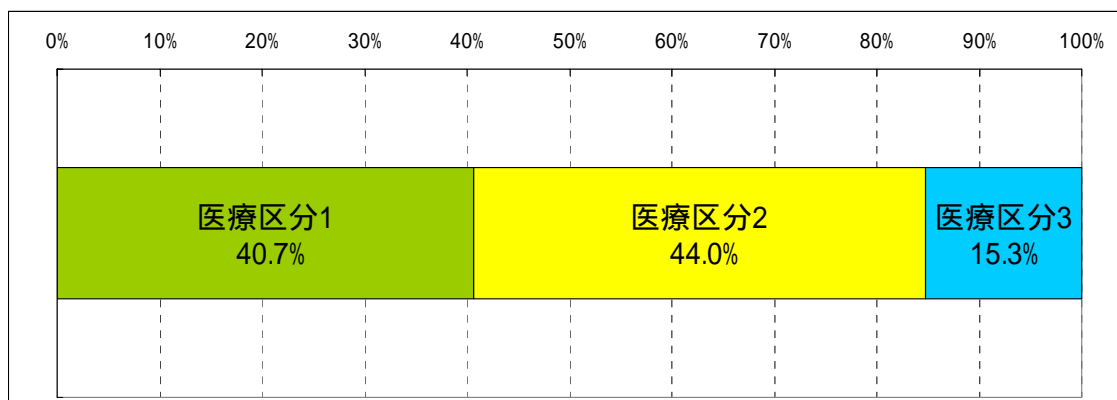
回答施設の病床数

医療療養病床	介護療養病床
11,385 床	7,867 床

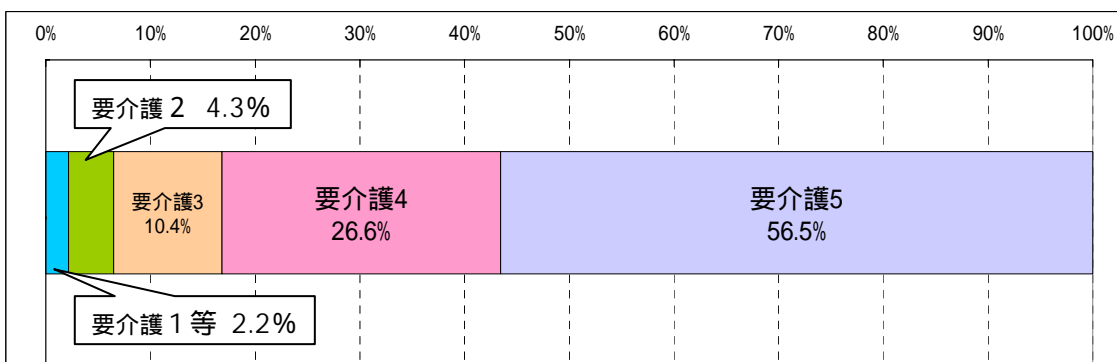
回答施設の入院患者数

医療療養病床	介護療養病床
10,117 人	7,525 人

医療療養病床における入院患者の医療区分

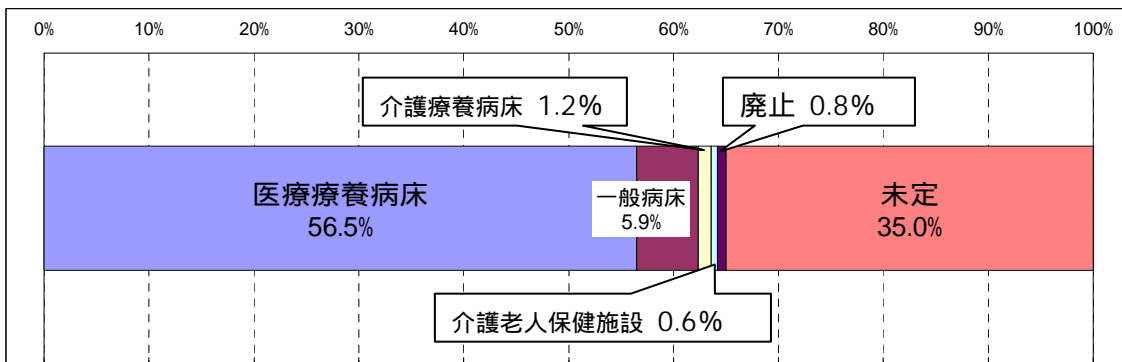


介護療養病床における入院患者の要介護状態等区分



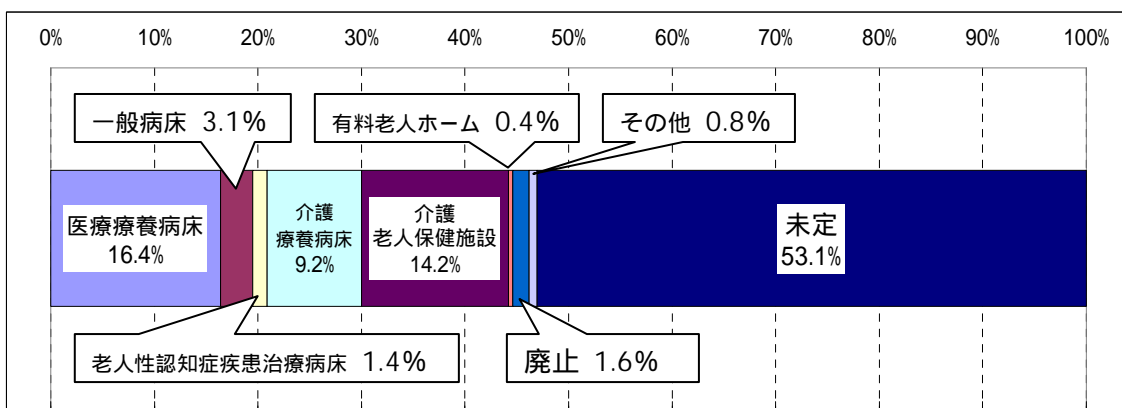
医療療養病床における転換意向

医療療養病床の転換意向は、医療療養病床にとどまるが最も多く 56.5%であった。転換意向は、一般病床 5.9%、介護療養病床 1.2%、介護老人保健施設 0.6%のみで、未定が 35.0%であった。



介護療養病床における転換意向

介護療養病床の転換意向は、医療療養病床へ 16.4%、介護老人保健施設へ 14.2%で、平成 23 年度まで介護療養病床にとどまるが 9.2%であった。また、未定が 53.1%にのぼった。



< 患者票 >

回答施設の入院患者数

医療療養病床	介護療養病床
10,117 人	7,525 人

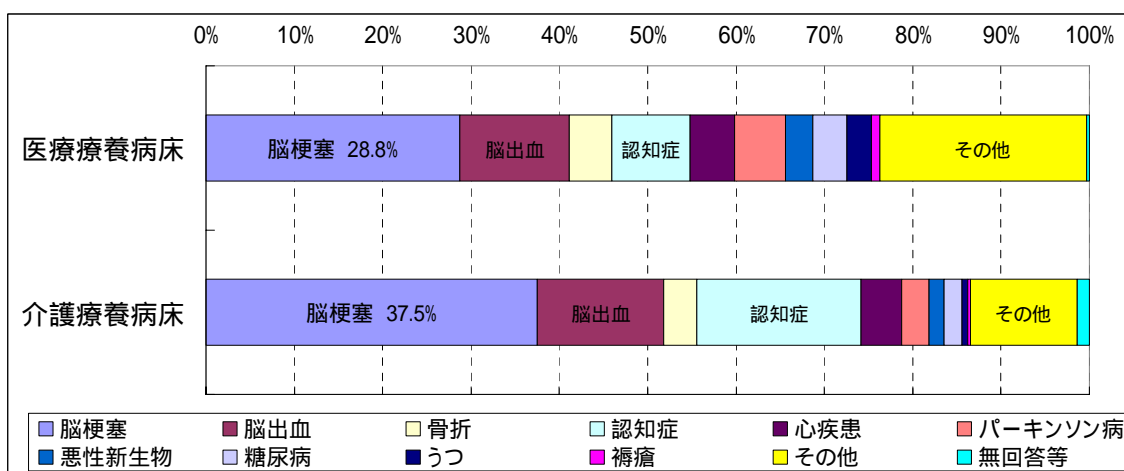
抽出患者数

医療療養病床	介護療養病床
3,188 人	2,461 人

主傷病名

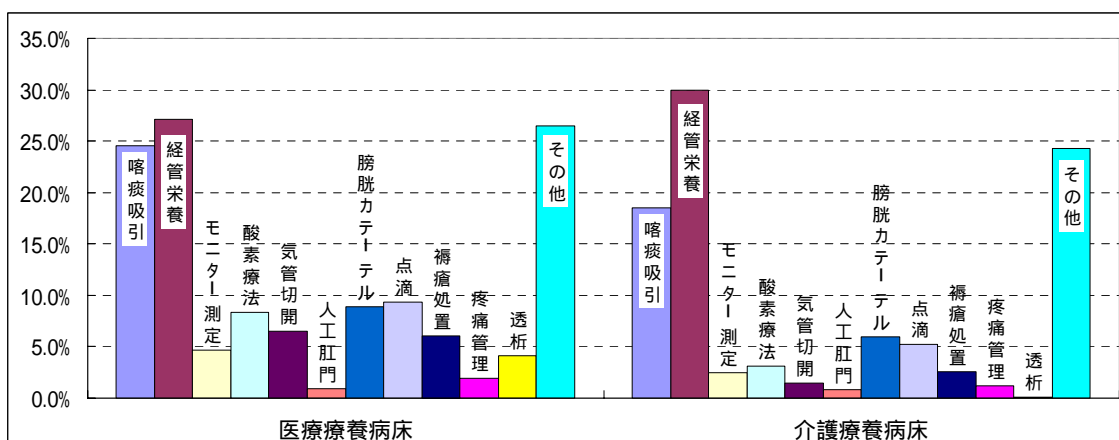
医療療養病床では、脳梗塞と脳出血の脳血管疾患が合わせて 41.2% を占め最も多く、次いで認知症が 8.8%、パーキンソン病が 5.8% であった。

介護療養病床では、脳梗塞と脳出血の脳血管疾患が合わせて 51.8% を占め最も多く、次いで認知症が 18.5%、心疾患が 4.6% であった。



医療処置

入院患者に行なわれていた医療処置でその割合が大きかったものは、医療療養病床では経管栄養が 27.1%、喀痰吸引が 24.6% で、介護療養病床では経管栄養が 30.0%、喀痰吸引が 18.5% であった。(複数回答)



それぞれの施設等の機能や、本人の医療や介護の必要性等を踏まえ、医療機関として対応が望ましいと考えられる施設

入院患者にとって対応が望ましいと考えられた施設は、医療療養病床では、医療療養病床が 52.6%、特別養護老人ホームが 21.5%、介護療養病床が 17.7%で、介護療養病床では、介護療養病床が 65.9%、特別養護老人ホームが 27.0%、医療療養病床が 12.8%であった。(複数回答)

